

越中福岡の菅笠製作技術保存会通信

2012年

No. 11



会長挨拶

越中福岡の菅笠製作技術保存会

会長 木村 昭二

私達の保存会が発足して三年余りになりますが、この間、恙なく経過して参りました。世間では、高齢者だけでなく一般の人でも十分な仕事が無くて社会問題になっておりますが、私達には十分な仕事があり結構な事と思っております。

皆様も高齢の方が多くと存じますが、私も今年八十五歳になりますが、まだまだ十年以上は「骨刺し」を続けるつもりです。国の重要文化財に指定されたのは菅笠その物でなく製作技術であり私達の仕事その物が重要なので自信と誇りを持って進もうではありませんか。

皆様のご健闘を期待申し上げます。



スゲ草を使って小物づくり教室

平成二十四年一月二十一日（土）二十二日（日）の二日間において、「スゲ草を使って小物づくり教室」を開催しました。

スゲ草は、乾くと折れたり割れたりする性質を持つので、前日に水中に数分入れ、湿らせたタオルで、数時間覆います。すると、スゲ草に水分が浸み込み、やわらかくなることで、作業がしやすくなります。

初めての試みでしたが、皆さんと話をしながら、とても楽しい時間を過ごすことができました。



右の写真は、小物づくり教室に参加された方の作品です。コースターは、スゲ草を交互に組み合い、隙間なく仕上がっています。皆さん、にこにこ笑顔で、作品を持ち帰られました。

菅笠製作取材



昨年引き続き、菅笠製作現場の取材の申し込みが増えています。特に笠縫最盛期の今は、笠縫技術者の方への取材が多いです。保存会より取材申し込みの依頼を快く引き受けて下さる会員の皆様には本当に感謝しております。また、菅笠を知らない多くの方に関心を寄せてもらう大きなチャンスです。保存会と共にご協力をお願いします。

福岡小学校新校舎



今年二月、福岡小学校が、木のぬくもりのある新校舎へ引越しました。この校舎の建設推進委員会で、『福岡町特産の「菅笠」をデザインに取り入れてほしい』との意見がありました。仕上がった校舎の玄関昇降口天窓（写真①）や、一階ラウンジルームの天井部分（写真②）は、笠骨をイメージさせるデザインになっています。



↑
②

編集後記

保存会も、三年目の後期に入っております。昨年、スゲに関わっておられる方々と話をしていました。「スゲが不作で足らんそうなあ」「やめつきたった人もやつさるがいと」「前からみりや少なくなしはった人もやつさるし。」これは、笠縫技術者も同じことですが、つい、「どこの家け？」と、聞きますと、「〇〇の家や。一年一年、歳がいくがやし、無理がかかるちゃ。なかなか若いもんには理解されんしく」と、返ってきました。菅笠づくりの後継者探しにと声を掛けられ、一歩足を踏み込んだ重要無形民俗文化財の世界。目まぐるしく変化する現世にそれならこの理解者にはなかなかめぐりあえず。しかしながら、暗い中からの小さな光（後継者育成）が見えてきました。今後も、地道な声かけが必要だと感じております。

